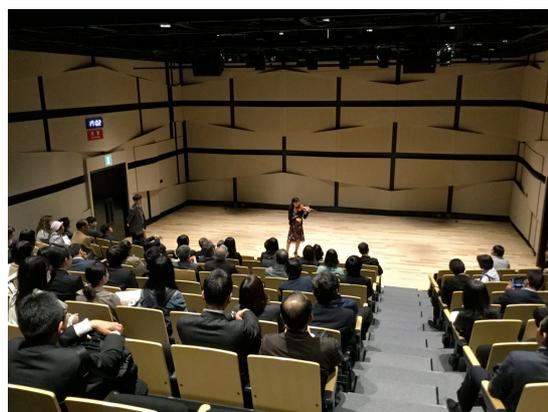


2018年3月度 建築音響研究会 開催報告

3 月度の研究会は浦安音楽ホールで開催しました。研究会後には演奏試聴会も開催しました。研究会のテーマは一般で、間違いだらけの音響設計、浦安音楽ホールの音響設計という 2 件の音響設計に関する発表と、本年度環境音響研究賞を受賞された佐久間先生の招待講演として、壁面の垂直入射乱反射率の実験室測定法壁面の垂直入射乱反射率の実験室測定法に関する研究発表が行われました。参加者は 83 名で、非常に活発な質疑討論が行われました。研究発表後は、浦安音楽ホールのコンサートホールおよびハーモニーホールで演奏試聴会を実施し、全体として研究会は大盛況でした。今後も引き続き、積極的な話題提供と研究会への多数のご参加をお願い申し上げます。

■ 開催概要

日 時 平成 30 年 3 月 30 日 (金) 13:30~17:00
場 所 浦安音楽ホール・コンサートホール
〒279-0012 千葉県浦安市入船一丁目 6 番 1 号
参加者 83 名



■ 発表題目および内容概要（テーマ：一般）

※以下の概要は建築音響研究会資料の「内容概要」から転載したものです

1. まちがいだらけの音響設計・60有餘年の反省記

○安岡正人

【概要】これまでの著者の経験に基づいて、空間設計と音響設計、音響設計の在り様、音響的空間設計のアプローチ、最適残響時間の考察、事例の紹介など、著者の考えをまとめた。

2. 壁面の垂直入射乱反射率の実験室測定法【環境音響研究賞受賞記念講演】

○佐久間哲哉（東京大学）

【概要】壁面の音響散乱性能を表す乱反射率に関しては、ランダム入射値を測定する残響室法が規格化されているが、本報告では垂直入射値の実験室測定法を新たに提案する。垂直入射乱反射率は、室内音響設計における平行壁面間のフラッターエコーの推定や直方体室の残響時間の予測に有用な指標となりえる。提案する測定法では、吸音性の側壁と反射性の平行な天井・床からなる直方体室に準1次元音場を生成した上で、床全面に試料を設置して残響時間を計測し、試料設置・非設置状態の残響時間の差から乱反射率を推定する。1/4縮尺模型実験を通して計測方法および試験室寸法に関する検討を行い、さらに実測値と理論値・数値解析値との比較により測定法の妥当性を検証する。

3. 浦安音楽ホールの音響設計 — 多彩な響きを持つホール —

○高橋顕吾（ヤマハ）、清水寧（S/F Design Lab.）

【概要】浦安音楽ホールは東京の通勤圏で東京ディズニーリゾートにも近い新浦安駅前に位置する。本施設はこのような様々な人が行き交う都会の広場の中にあり、ここを訪れたヒトが自分の目的や好みで選択できる「多彩な音空間」を持つ音楽複合施設を目指して設計が行われた。特にコンサートホールでは場所によって異なる音の特徴（様々な響き、明瞭性、空間印象）を持った不均質な4つの「響きの風景」からなる音楽ホールとして計画された。また、ハーモニーホールはキューブ型の空間に様々な機構（移動観覧席、舞台反射板・幕およびAFC）を導入することで様々な形態や音場に可変可能な多機能ホールとして計画された。

☆建築音響研究会の別刷(バックナンバー)に関する問合せ先：

担当幹事（<http://asj-aacom.acoustics.jp/backnumber.html>）までご連絡下さい。